

## セグメント概要

## 電子機器関連事業



### “さらに成長する半導体需要に対する生産拠点拡充”と“樹脂不足に対するリサイクル化”を推進

成長を続ける半導体市場に対し、国内・海外の生産拠点を拡充し安定供給を目指します。また、ふっ素樹脂不足への対応として代替材や再生材の使用を推進するとともに、リサイクル樹脂のクリーン度向上を目指します。

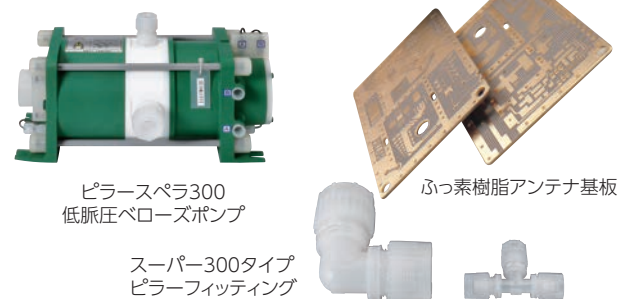
執行役員 生産技術本部長兼福岡山事業所長

藤原 優

## 事業概要と市場環境

当事業では、半導体や液晶向けのふっ素樹脂製の継手やポンプなどを製造しています。新型コロナウイルスの感染拡大や、ロシアの軍事侵攻、米中摩擦など市場を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中で、半導体市場においては世界的な需要の増大により半導体が不足する状況が続いており、当社においても2022年度の業績は好調だった2021年度をさらに上回りました。一方で、2022年度は原材料のふっ素樹脂が不足するという大きな課題に直面した年でもありました。対応策として、これまでは端材として廃棄していた樹脂の再生使用や、用途による代替材の使用を検討しました。また、当該製品にはクリー

ン度など求められる半導体仕様があるため、お客様とともに用途を確認しながら再生材や代替材への転換を進めました。併せて樹脂メーカーに対しては、粘り強く交渉を重ねて供給量の確保に努めました。



ピラスペラ300  
低脈圧ペロースポンプ

スーパー300タイプ  
ピラーフィッティング

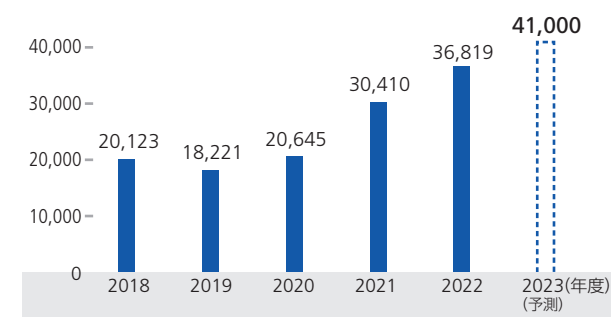
ふっ素樹脂アンテナ基板

## 前中期経営計画「BTvision22」の振り返り

前中期経営計画「BTvision22」最終年度となる2022年度の売上高は前年度比+64億円(+21.1%)となり、2年連続で過去最高を更新しました。ITや自動車市場などでの半導体の需要が追い風の一つではありますが、これに対する供給量を生み出すために、諸施策を講じていたことが結果につながったと感じています。例えば設備投資においては、長期化する製造装置の納期を考慮して、数年先を見据えた設備の投資計画を立てて実行してきました。射出成形の金型においては、2022年度に金型専門メーカーである増子製作所をグループに加えたことで、綿密かつタイムリーな情報共有を行い連携することで多くの金型を立ち上げることができました。また、原材料価

格の高騰により価格転嫁も行いましたが、当社製品へのお客様からの厚い信頼によって理解いただけたものと認識しております。

■ 売上高推移グラフ(単位:百万円)



## 新中期経営計画「One2025」の展望

2023年度からスタートする新たな中期経営計画「One2025」において、「進化・成長し続ける半導体市場に対する高付加価値・差別化製品の継続投入による強固な事業基盤の構築」を目指します。

福岡山第2工場稼働による製品供給量の拡大や生産性向上の効果を引き出し、コストや納期の競争力を高めることで、基盤強化を進めます。

また、中国市場においては滁州ピラー工業の生産機能拡大によるシェアアップを図り、欧米市場においては半導体装置メーカーでの更なる採用拡大を目指します。

チャレンジ施策としては、強靱なサプライチェーンの構築や、樹脂リサイクルの推進、2種類の樹脂を組み合わせた2色成形、これまで経験のない大型成形などに取り組み、One2025の目指す姿の実現に向けて邁進します。

## 今後の課題と目標

2023年度の半導体市場は踊り場局面との予測ですが、2023年後半から2024年にかけて次の波が来るという市場の期待感があります。市場全体の動向としては、IT・情報通信市場向けや自動車市場向けなどがけん引し半導体市場はまだまだ伸びると予測しています。また、情報通信市場における5Gや6Gといった通信技術の進化は、半導体需要のみならず当社のふっ素樹脂基板(高周波

基板)の市場でもあり、ふっ素樹脂の特性を活かした半導体以外の開発、開拓を進めていきます。

2024年に創業100年を迎えるなかで、流体を制御する部品を扱う会社であるという創業の精神を大切にしつつ、次の100年に飛躍するために新中期経営計画「One2025」を推し進めていきます。

## TOPICS

## 再生樹脂の活用

ふっ素樹脂不足に対する施策として、これまで成形後の端材として発生していた樹脂を、再生樹脂として再利用しています。汚染リスクの面から現時点ではお客様と相談のうえ、用途を限定しています。今後はクリーン度の向上に努め、限られた資源の有効活用や廃棄物の削減に貢献していきます。



再生材使用ナット(左が再生材)

## 滁州ピラー工業にて半導体製造装置向け製品の生産開始

中国内での半導体事業強化の動きを受け、滁州ピラー工業にて、本格的に半導体製造装置向け製品の生産を開始しました。また、半導体関連企業が集まる北京にも新規事務所を開設しました。今後もさらに拡大が見込まれる中国の半導体市場に対応するため、地産地消を進めていきます。



滁州ピラー工業のクリーンルーム